

JANOG58

『坂の上の雲』へ 続く道は、 どこにあるのか

— ネットワークに関わる人の最初の一步と、
その先へのつながりを考える —

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター
根津智子

自己紹介



根津 智子

(一社) 日本ネットワークインフォメーションセンター
インターネット推進部
部長



11月19日(水) ~ 24日(火) の間で開催予定 【オンライン】
25日(水)・26日(木)・27日(金) 【現地開催】

KFC Hall & Rooms
(東京・両国)



ネットワークインフラ：世界を動かす鼓動

世界の鼓動

夢、アイデア、そして人類をつなぐ。私たちの生活を動かす、見えない光。

グローバル・ニューラル・ネットワーク

遠くから近くへ

境界をなくす。地理や時間の制約を打ち破る。

レジリエンス（強靱性）と災害支援

安全のバックボーン。必要なときに、命を救う。即時の通信を確保する。

スマートな持続可能性

効率的なスマートシティを動かし、廃棄物を削減し、地球規模の健康を監視する。

未来は今

新たな可能性を解き放つ：リモートワーク、遠隔医療、精密農業、そしてメタバース。

私たちの未来へのインスピレーション

ネットワークインフラは単なる技術ではない。つながった世界へのインスピレーションだ。

ネットワークインフラって、素晴らしい。

見えないところで世界をつなぎ、街の灯りを絶やさない。その静かな仕事に、敬意を込めて。

見えないけれど、社会をつないでいる。

ネットワークインフラは、暮らしと仕事と挑戦を支える土台。

つながる安心。ひろがる可能性。

見えないところで、世界はつながり続けている。

ネットワークインフラは、技術と人の協調で社会を支える。

ネットワークインフラって、素晴らしい。

見えないつながりが、世界を動かし、未来をつくる。

つながり方で、すべての人に、もっと豊かな未来を。
ネットワークインフラは、安全の神経線。
見えない場所で、24時間365日、世界を支えています。

ないでいるのは、技術だけじゃない。人の想いと、使命感。

ネットワークインフラに関わるすべての人に、ありがとう。

「ネットワークインフラって、素晴らしい」

遠く離れた
人同士が、
ほとんど距離
を意識せずに
つながれる

障害が起きて
も、別の経路
へ流れ、簡単
には止まらな
いよう設計さ
れている

物理と論理
が両方成立
して初めて
動く

見えない
交通整理
の美しさ

世界中の
異なる組織が
中央の支配者
なしに、合意
と協調で動か
している

日常を
支える
巨大な力

普段は存在を
意識されない
のに、社会の
活動のほぼす
べてを成立さ
せている

海底、地中、
ビルの中で、
膨大な機器と
人が黙々と
支えている

進化し
続ける
強靱さ

普段うまく
いっている時
ほど誰にも気
づかれない点
がむしろすご
い

「人と人を
つなぎたい」
という人の思
いを実現して
いることが
素晴らしい

“つながり”
を支える仕
組みである

「素晴らしいインフラ」の人材確保がなぜ話題になるのか

「完璧であって当たり前」という透明化現象・評価の非対称性

「絶対に止められない」というプレッシャーと激務

何をしている仕事か外から見えない

仕事の全体像が見えない

入口が「経験者向け」に見える

「華やかさ」の欠如
高度な専門性の壁

キャリアの先が見えない

責任と待遇・働き方の釣り合いが疑われている

「地味で難しそう」という誤解

「魅力がない」のではなく
「魅力」・
「入口」・
「将来像」
が見えにくい

AIやクラウドの陰に隠れている

素晴らしさが「利用者の体験」に隠れてしまう

では、どうすればいいのか

「見えない
価値」を
ストーリー
で伝える

人や社会が安
心して活動で
きる、つなが
りの仕組みを
設計し、守る
仕事であるこ
とを伝える

「つながっ
ている
日常」を
たたえる

一つの
「ネット
ワークエン
ジニア像」
にまとめない

「事故が起
きなかった
こと」を成
果として
可視化する

「AI時代に
一番強い」
という
キャリア提
示

アプリケー
ション層と
境界性を
溶かす

「最先端の
スマートな
仕事」への
脱皮

見える化・
言語化・
翻訳をする

キャリアを
「階段」
「段階」と
して可視化
する

就職の前に
「本物の仕
事」を経験
できるように
する

「縁の下の
力持ち」か
ら「オーケ
ストレー
ター」へ

チームを
守るマネジ
メント

自動化に
よる負荷削
減

身体的
負担を
減らす

最初の配属
が「監視だ
け」で終わ
らないよう
にする

企業側が
変わる

さまざまな
業界内の
試みを
接続する

コミュニティ
が
「伴走者」に
なる

「坂の上の雲」

この物語の主人公は、あるいはこの時代の小さな日本ということになるかもしれないが、とにかくもわれわれは三人の人物のあとを追わねばならない

のぼってゆく坂の上の青い天にもし一朵の白い雲がかがやいていとすれば、
そのみみつめて坂をのぼってゆくであろう



「坂の上の雲」と、そこへと続く道

ネットワーク技術や運用の知見を次代へ継承していくうえで、
若手を含む多くの人々が「どこから最初の一步を踏み出し、
どのようにその先の広い場へつながっていくか」は
重要なテーマです

見えているのは、
点在するいくつかの「場」
ただ、確たる「道」としては見えていない



この75分で、皆さんと共有したいこと

1

知る

最初の一步になり得る「場」には
何があるのかを知る

2

持ち寄る

入口で感じた壁や
一步を支えた経験を持ち寄る

3

考える

次の一步を開くために
自分たちでできることを考える

調査で見える「不足感」

若手本人から見た壁

最初の一步になりえる複数の場

送り出す側・支える側から見た課題

次につなぐために必要なこと

本日のスピーカー



宮本 知典

TOMONORI MIYAMOTO

総務省 データ通信課



吉川 知輝

TOMOKI YOSHIKAWA

京都大学大学院



川村 聖一

SEIICHI KAWAMURA

通信インフラアドバイザー



工藤 紀篤

NORIATSU KUDO

慶應義塾大学



前村 昌紀

AKINORI MAEMURA

日本ネットワークインフォメーションセンター
(JPNIC)

01

若い人に「来てほしい」と言う前に、
業界側がまず変えなければならないことは何でしょうか？

02

海底ケーブルを見に来た吉川さんに、
JANOGや周囲の人たちは、何を返してくれたのでしょうか？

03

メンターとの出会いを偶然のままにしないために、
コミュニティは何を仕組みにすべきでしょうか？

04

学び始めた人が、その先の実践へ進むために、
バッジは、何を証明し、
次のどんな機会を開くものであるべきでしょうか？

05

「自分にはまだ早い」と思っている人が、
明日から取りに行ける最小の役割は何でしょうか？

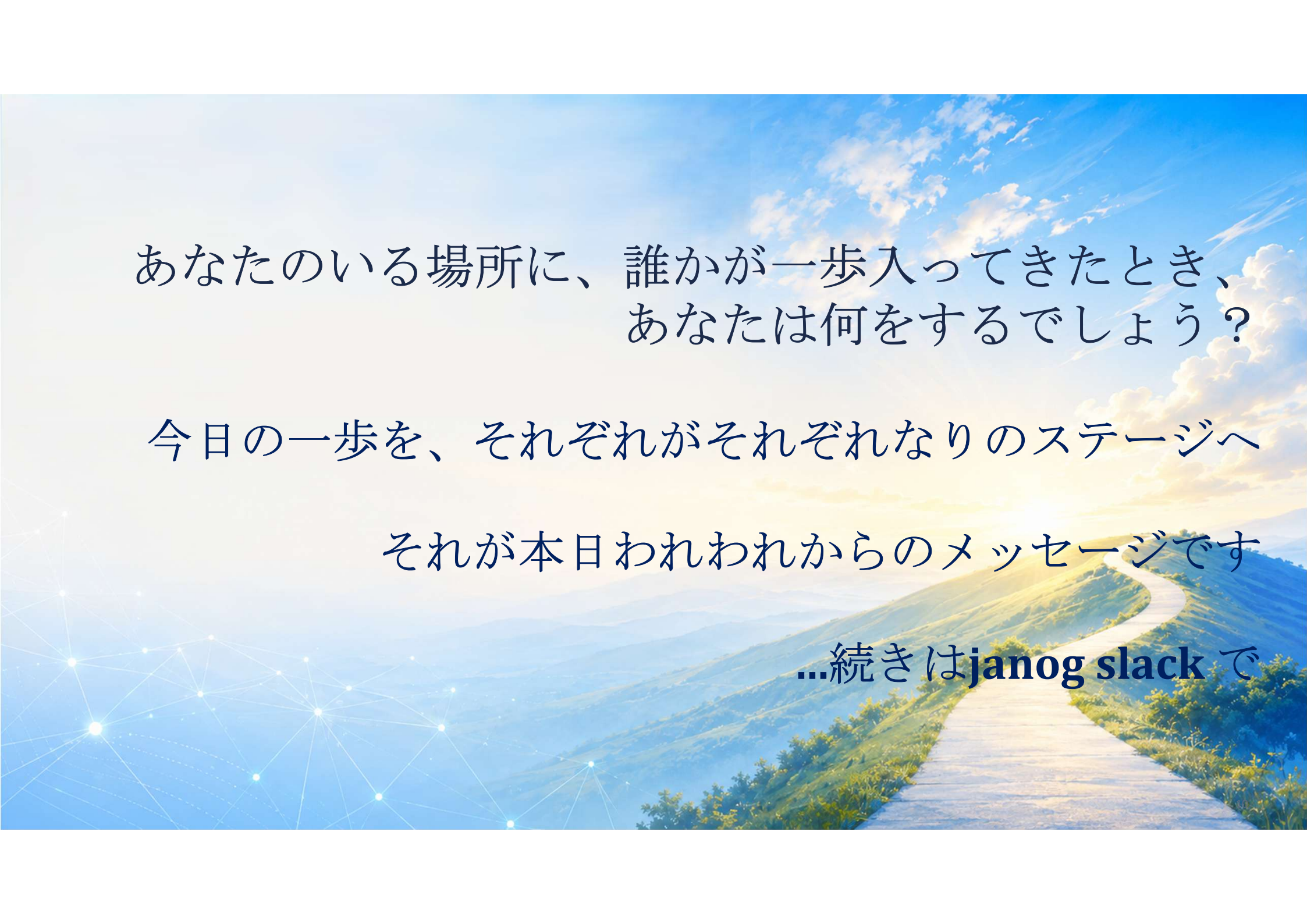
06

ほかの登壇者の話を聞いて、
自分が関わる場に足りていないと思ったものは何ですか？

07

入口を見せること、伴走すること、次の役割を渡すこと、
今の私たちに、最も足りないのはどこでしょうか？





あなたのいる場所に、誰かが一步入ってきたとき、
あなたは何をするでしょう？

今日の一步を、それぞれがそれぞれなりのステージへ

それが本日われわれからのメッセージです

...続きは**janog slack** で